

- 福島に帰られた K さんご夫婦へ -

昨年3月の東日本大震災で被災され、当クリニックに転院して来られていた K さんご夫婦が、ほぼ一年の滞在後松江を離れご自宅に帰られました。

K さんは福島第1原発から20km 圏内に住んでおられた為、心配された松江に住む娘さんが車で迎えに行かれ、ほとんど着の身着のままこちらに来られ市営住宅での仮住まい生活となったそうです。最低限の電化製品や寝具は貸与されたそうですが、言葉も通じず、「水も米も魚も味が違って・・・。」慣れない松江での生活を、透析の合間にぽつりぽつり話してくださいました。毎回ご夫婦連れ立って来院され、穏やかな中にも芯の強いご様子と仲の良いお姿に、日が経つにつれスタッフの方が癒される、そんなお人柄の二人でした。

地元に近い所に避難された方からの情報が入る度に、「帰りたい。」という思いが強くなっておりましたが、やっとめどがついて今回の転居が実現されました。「松江はいい所だし、みなさんに良くしてもらったけど、やっと帰れることになって嬉しい。家がどうなっているのか分からないんですけどね・・・。」と話されていました。

以前通われていた透析施設は閉鎖となり、今度は通院に自宅から車で1時間かかるそうですが、どうか新しく始まる透析生活が少しでも穏やかでありますよう、心からお祈りいたします。

ちょうど1年間当院で透析治療を受けていただきました。なれない土地での生活も大変だったと思いますが、ご夫婦でいつも一緒にいらっしゃいました。福島で落ち着いた生活が再びできる日が早く来るように願わずにはられません。

院長より

福島から避難されてこられた K さんご夫婦。縁あって私達のクリニックで1年間透析治療を受けていただき、やっとふるさと福島に帰る事が出来ました。突然降って沸いた非日常に透析治療を行いながらの1年間は不安と心配でとても長いものだったと思います。それなのにむしろいつも一緒に過ごされるご夫婦の「ほっこり」としたお人柄と福島弁に私達の方が癒されていました。ありがとうございました。

副院長より